

---

# 鏡の中

\_瑠姫

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

鏡の中

### 【Nコード】

N5178BA

### 【作者名】

— 瑠姫

### 【あらすじ】

主人公・由香は駄目駄目中学生。

そんな由香の中の由香が…

「馬鹿じゃないの、由香！！」

保健室で友達であり保険委員の真央に怒鳴られる。

「しよ〜がないじゃん…私の運動音痴さは承知してるでしょ」

「それ自分で言うなっつもの！！」

ペタッと私の膝に絆創膏を貼った真央。

毎度のコトとはいえさすがに怒ってるかもだ。

「ごめんねえ真央」

謝ったそのとき、授業の終わりを知らせるベルがなった。

「ホラもう授業終わっちゃったよ〜！！！」

眉間にシワを寄せ真央が怒鳴る。そんなに怒んなくても…

「お〜い、大丈夫か？由香」

保健室の校庭につながっているドアが開いた。

「祐樹」

ドアを開いたのは私の幼馴染、祐樹。

「全くドッジボールであんなに派手に転ぶなんてなあ」

ククク、と笑い保健室に入ってくる。

そう。私は運動音痴すぎる。自分で言うのもなんだが。

そして今日、さっきの授業のドッジボールで…

ボールを当てられて。そこまではいいんだけど…滑って転んで半回転して…

膝と肘と顔にスリキズを負って、真央に保健室に連れてってもらったってわけ。

「そうよ、運動音痴だって分かってるんだったら特訓しなさいよ」

真央がぶーっと口を尖らせる。

そういう真央は運動神経抜群で勉強もクラスでトップ。性格もいい。

祐樹も、真央みたいな口のほうがいいんだろうなあ…

ぶーっとそんなことを考えながら手当てをしてもらい、保健室からでた。

今更ながら私の名前は新城由香。

迺空中学校に通う2年生。

さっき説明したとおり運動は学年トップでできない。

かといって勉強ができるかといったらそうではなくて、クラスで真ん中より下。

性格は…分からないけどよく天然だって言われて、真央みたいなシツカリ者ではない。

ああ、生まれ変わりたい。

こんな運動音痴で頭悪いからだに生まれてこなきゃよかつたあ…

そんなこんなで大っ嫌いな体育を怪我のためサボれて  
その後の大っ嫌いな授業もほとんど居眠りして今日の学校は終わ  
った。

「真央<sup>まお</sup>、バイバイ〜」

「じゃね、由香!〜!」

真央は塾があるため一緒に帰れない。たいへんだねえ頭いい人は。

「ただいま〜」

帰宅する。

が、両親は仕事で遅い。

「ふあ〜あ」

2階に上がり自分の部屋に入った。  
入ってすぐの鏡を見つめ今日できた顔の傷を見る。

「最悪…けつこつ血い出てたっばいしい…」



1時間ほどたつて私は目を覚ました。  
すると私の机に由香が座っていた。

「夢…私…疲れてるのかな…コレは夢…」

ぶつぶつと一人で唱えていると由香がこっちを向いた。

「夢じゃないよお」

ギイツと音をたて椅子から立ち上がりこちらへくる。

「宿題 やつといてあげたのにイ」

いまおもえば声も私そっくり…そっか、コイツも由香か。

「ありがと…て違う!!なんなのアンタ!!」

一呼吸置いて話し初める。

「私は…」

唾を飲み込む。

「私は、由香の中の由香!…」

きっぱりと言い切る由香だがさっぱり分からない。

「私の中の私!？」

「そう。アンタが鏡みるたびに私はずっとアンタの中にいたの」  
さっぱりわかんない。  
でも何もかもわかんないほうがなんか現実味があった。

「んでき、由香が2人も居るの困るでしょ？だから私はアンタの中にいたの」

確かにココだけは理解できた。2人も由香が居ちゃ駄目だったけどだ。

「なんで今頃になって出てきたかって言うとお…」

由香が口を開く。

瞬間、鏡の中に由香は入った。

「私がコッチの由香になるため」

由香が由香に向かって微笑む。

あれ…私は

どっちの由香だっけ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5178ba/>

---

鏡の中

2012年1月14日12時58分発行